

# 平成二十七年 小学生・中学生 秋の俳句大会

平成27年11月1日から29日まで開催した「小学生・中学生 秋の俳句大会」は、投句数にして529句のご応募をいただきました。

たくさんの方々のご参加、誠にありがとうございました。

審査会を行った結果、最優秀作品 小学生の部二句、中学生の部二句、入選作品 小学生の部五句、中学生の部五句を次のとおりに決定いたしました。

(賞・部門ごとに学年順・五十音順)

## ◆審査会委員

井澤 昭雄 (四日市中日文化センター講師、ともしび詩舎同人)

野村 弘和 (公益財団法人徳川黎明会 徳川美術館 管理部 マネージャー)

桐原 千文 (名古屋市蓬左文庫 文庫長)

岩田 正雄 (公益財団法人名古屋しみどりの協会・岩間造園グループ 徳川園事務所 所長)

## 《最優秀作品・小学生の部》

名古屋市立 矢田小学校 (東区) 一年 西井 綾香 さん

どんぐりが ころころはしるよ うんどうかい

徳川園のスタジイの森は緑地保全地区です。秋には森の坂道をどんぐりが競争するようころがっていきます。まるでうんどうかいのようです。それを見つめるやさしいまなざし、思わず拾ってポケットに入れたくなる。どんぐりは子供の宝物。そしてスタジイのどんぐりは生でも煎っても食べられます。子供たちとよく遊んだという一茶のお墓にはどんぐりがお供えしてありました。

【審査員 井澤 昭雄】

# 《最優秀作品・小学生の部》

名古屋市立 砂田橋小学校（東区）三年 古川 さら さん

くらいけど まだあそぶぞと 上ぎぬぐ

「秋の日は釣瓶落とし」と表現されるように、一気にあつというまに暮れてきつきまで夕焼けで明るかった空が真つ暗に変わってしまいます。暗くはなつたけど、子ども達にはまだまだ外で遊ぶ時間です。気温はまだまだ夏の夕方とかわりません。上ぎを脱いでもう一遊びです。こどもらしい元気な表現のなかに、絶妙に秋の日の情景や空気が表現されていて見事。春の受賞作とともにこの作者独自の世界を感じます。

【審査員 桐原 千文】

# 《最優秀作品・中学生の部》

東海学園 東海中学校（東区）一年 松下 史弥 さん

足裏に 優しきじゅうたん 紅葉狩

平安時代狩りをしない貴族が、紅葉を愛で手に取り眺めたことから「紅葉狩」と言われるようになったと言われています。紅葉狩りには様々な鑑賞の楽しみがあります。鮮やかな赤色のモミジとマツの緑色との調和、池に映る穏やかな様子を心静かに眺めたり、滝から流れ落ちる水の音、溪流に流れる水の音を聞きながら心躍らせるなど、場所ごとに紅葉の変化を楽しむことが出来ます。この作品からは、落葉したモミジが園路にじゅうたんの絵模様を描き、作者が優しく足裏で紅葉狩をしたような景色を思い浮かべます。

【審査員 岩田 正雄】

## 《最優秀作品・中学生の部》

名古屋市立 矢田中学校（東区）三年 小野寺 恵 さん

ふと気付く 昼は短く 袖長く

慌<sup>あわ</sup>ただしい金曜日<sup>きんようび</sup>の夕刻<sup>ゆうこく</sup>。試験<sup>しけん</sup>の準備<sup>じゆんび</sup>もやっと終わり、ふと窓<sup>まど</sup>の外<sup>そと</sup>に目<sup>め</sup>をやると、あんなに鮮<sup>あざ</sup>やかだった紅葉<sup>こうよう</sup>もほとんど散<sup>ち</sup>り落<sup>お</sup>ちてしまい、外<sup>そと</sup>はもう薄暗<sup>うすぐら</sup>くなっています。ついこの前<sup>まえ</sup>まではまだ明<sup>あか</sup>るかったのに。朝<sup>あさ</sup>起きるときも寒<sup>さむ</sup>くてなかなかふとんから離<sup>はな</sup>れられないなあ。そういえばおかあさんが出てくれた長袖<sup>ながそで</sup>のセーターがあったつけ。明日<sup>あす</sup>はあれを着<sup>き</sup>て久しぶりに友<sup>とも</sup>達<sup>だち</sup>と外出<sup>がいしゅつ</sup>しよう。

短<sup>みじか</sup>いと長<sup>なが</sup>いを対<sup>たい</sup>比<sup>ひ</sup>させ、季<sup>き</sup>節<sup>せつ</sup>の移<sup>うつ</sup>り変<sup>か</sup>わりを鮮<sup>あざ</sup>やかに切<sup>き</sup>り取<sup>と</sup>った作<sup>さく</sup>品<sup>ひん</sup>と思<sup>おも</sup>います。

【審査員 野村 弘和】

## 《入選作品・小学生の部》

名古屋市立 矢田小学校（東区）一年 西澤 大佑 さん

どんぐりが ころころころころ だんすする

名古屋市立 城西小学校（西区）二年 猪飼 倫太郎 さん

まどの外 みどりを赤黄に ぬりかえる

《入選作品・小学生の部》

名古屋市立 旭丘小学校（東区）三年 すぎはらさとこさん

もみじがね ライトアップで てれてるよ

名古屋市立 葵小学校（東区）三年 吉次 よしつぐ なほの さん

庭をはく そふのせなかに もみじふる

名古屋市立 矢田小学校（東区）六年 平崎 ひらき 麻琴 あさね さん

池の上 のんびりもみじ およいでる

《入選作品・中学生の部》

東海学園 あおやま 東海中学校（東区）一年 青山 あおやま 琢磨 たくま さん

弟の ふくれっ面や くり拾い

《入選作品・中学生の部》

東海学園 東海中学校（東区）一年 井上 いのうえ 蒼良 そら さん

金木犀 香の元を たどりけり

東海学園 東海中学校（東区）一年 小原 おはら 伽月 かつぎ さん

もう少し もう少し待つ 流れ星

東海学園 東海中学校（東区）一年 近藤 こんどう 拓夢 たくむ さん

天高し 青き宇宙の 背伸びかな

名古屋市立 桜丘中学校（東区）三年 伊藤 いとう かこ さん

思い出す 事ばかりなり 秋の雲